

畑の準備、定植
定植の2週間前に苦土石灰と堆肥を、1週間前に化成肥料をまいて深く耕しておきます。うねは幅60cm、高さは高めに15〜20cmに作ります。株間は45cmとり、根鉢は崩さないように注意して植えまします。植えたらたっぷり水をやりまします。黒マルチを張っておくと地温が上がって根付きがよくなります。早く定植しても寒ければ大きくなりません。冷たい風にさらされると枯れることもありまします。苗ドームやあんどんで囲ってやるとういひょう。

畑の準備、定植

追肥
収穫が始まったら2週間に一度、追肥をします。マルチをしている場合は棒で穴をあけてその中に入れます。土が乾きすぎている場合は液肥をやるとういひょう。



管理
間引きして一本にしてもよいのですが、樹勢が強くなって実が曲がったり、オクラが硬くなるのが早くなったりします。一場所に2〜4本立てると収穫が多少遅れてもやわらかいことが多いのでおすすめです。ただし風通しが悪くなると病害虫の心配があるので、オクラを収穫する際はその下の葉を1〜2枚残して、それより下はすべて切り取るとういひょう。

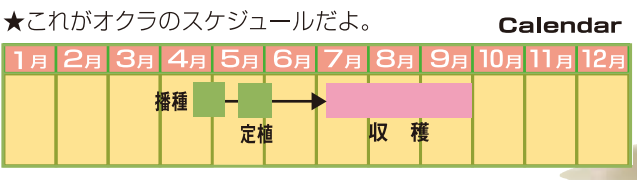
管理



ほうさくClub!

第202回
今月は

「オクラ」に挑戦!



- 施肥基準 (1㎡あたり一例)
 - 苦土石灰100g
 - 堆肥2kg
 - BBN552号60g
 - BB追肥N30号15g×数回

文中の肥料等は一例です。地区によっては違う種類で対応している場合もあります。不明な点は、営農技術員にお問い合わせください。

種類
◎**赤オクラ**／赤色。ゆでると緑色になってしまつので板ずりをしてサラダで食べる。
◎**白オクラ**／淡緑色。ねばりが強く、大きくなつても硬くなりくい。2019年 JAN・JAN 1月号のほうさくクラブでも紹介した。
◎**花オクラ**／本名はトロロアオイ。花を食べるためのオクラ。

収穫
さやが7〜8cmになったらはさみで切って収穫します。収穫が早すぎるとネバナバが少なく、遅すぎると硬くて食べられなくなるので要注意です。

イボ果、曲り果
水不足や水分過多、肥料切れや肥料のやりすぎ、日照不足や低温などで発生する生理障害です。食べられますが、こういうオクラができるときは環境が良くないか、株が老化したサインです。

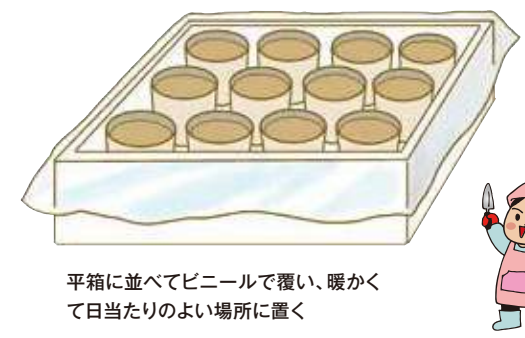
イボ果、曲り果

育苗

ポットに種をまいて苗を作ります。種は殻が硬くて発芽しにくいので、一晩水につけておきます。9cmポリポットに育苗用の土を入れ、種を3〜4粒まき、1cm程度覆土して水やりをします。ピートルをかけて日なたに置いておくと発芽しやすいですよ。3〜4本立つたまま、本葉が3〜4枚の時に定植します。



体に良いネバナ野菜として認知されているオクラ。古くから日本にあったかのような雰囲気ですが、日本で一般的に流通したのは1970年代以降のことです。原産は、アフリカ東北部エチオピアあたりまたはインドなどといわれており、熱帯地域の野菜です。日本の生産量も鹿児島や高知、沖縄などが多く、暖かい場所が適しています。当JA管内で栽培する場合は、気温が十分上がった5月中旬以降の植え付けが安心です。



畑に直接種をまく場合は、うねに黒マルチを張って地温を上げておきます。植穴に3〜4粒まき、1cmほど覆土します。

● オススメ資材 ●

スポンジゴム長靴
「快適くん」3,280円(税込)

スポンジゴム素材でとにかく軽く、朝露もしみない完全防水! 伸び・縮み自在で曲げやすく、しゃがみ作業も楽に行えます。脱ぎ・履きも簡単! 内側の素材は、夏場は汗によるベタつきを抑え、冬場は暖かさをキープします。
※サイズや色によっては、お取り寄せになる場合がございます。



○お求め・お問い合わせは、グリーンファーム各店までお気軽にどうぞ。